

同 志 社 大 学

2014 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

年 月 日提出

所 属	職 名	氏 名
社会学部	准教授	越 水 雄 二
研 究 題 目	シャルル・ロラン『学校教育論』から捉える フランス近代学校文化の形成	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究（平成 24～27 年度科学研究費・基盤研究C・課題番号 24530975）は、フランス 17 世紀末から 18 世紀前半に王立コレージュの雄弁術の教授やパリ大学の学長を務めたシャルル・ロラン Charles Rollin (1661-1741) の主著、通称『学校教育論』<i>Traité des études</i> (1726-1728) の内容を分析するとともに、18 世紀中葉から 19 世紀前半へかけての受容も解明することにより、フランスの近代的な学校文化が形成された過程を新たな視点から捉え直す試みである。</p> <p>ここで新たな視点とは、フランスにおいてギリシア・ローマの古典古代に学ぶ人文学の伝統が 18 世紀から 19 世紀へいかに継承されたかに着目することであり、また、学問や思想が近代化していく中でキリスト教の信仰を尊重した人物の知的営為に注目することである。これらによって、フランス近代教育史の展開が、啓蒙思想の進展および国家と教会との抗争を軸に辿られてきた従来の研究とは異なる側面から捉え直される。2014 年度は 4 年計画の研究の 3 年目であった。今年度の研究成果の概要を『学校教育論』の成立と受容の側面から述べよう。</p> <p>ロランが 1726 年と 1728 年とに 2 巻ずつ、合計 4 巻で公刊した教育論の原題は、<i>De la maniere d'enseigner et d'étudier les belles lettres, Par raport à l'esprit & au cœurs</i> であり、『人文学を教え・学ぶ方法—知性と心につなげて—』と翻訳できる。これが刊行直後から、読者にもロラン自身によっても <i>Traité des études</i> と簡略化されて呼ばれるようになっていた。とはいえ、その 3 語からなる通称は、ロランが生きている間に刊行されていた諸版の表題には掲げられていない。</p> <p>19 世紀半ば以降に版を重ねた <i>Traité des études</i> のテキストは、「幼児期の子どもに適した課業 <i>exercices</i>」と「女子教育」の 2 章からなる第一編 <i>Livre Premier</i> に、人文学諸領域の教育内容と指導法を扱う本論 7 編が続く構成となっている。ただし、第一編の内容は、1734 年に『補遺』<i>Supplément au Traité de la maniere d'enseigner et d'étudier les belles lettres</i> として別冊で公刊されたのであった。ロランの教育論を継承した 19 世紀の教育関係者（学者・教師）により、その補遺を巻頭に据えた <i>Traité des études</i> が生まれ、広く普及していったのである。</p>	